

◆法人の理念◆

「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」

～私たち（プシケおおた）は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します。～



グループホームの引越しについて

ホームプシケ 濱口正義

昭和56年6月以前に建てられた建物が耐震基準を満たしていないという東京都の指導があり、グループホームの借り替えをしなければならなくなった。プシケおおたのグループホームは大田区内に5ヶ所あるが、そのうち、基準を満たしていないのが4ヶ所。うち1ヶ所については大家さんが耐震工事をしてくださることになり、借り替えが必要になるのが3ヶ所となる。1軒目が平成28年5月に、2軒目が平成29年4月にお引越しを終えた。大田区内の大きなお寺の、南から北へ走る表参道をはさむようにして、この2軒が建っている。同じ川のそばにあり、この両者間は自転車の移動で5分くらいの至近の距離にある。川面を渡って来る風が心地良い土曜の午後、入居者のみなさんが交流室で裁縫をしたり、お茶飲みをしていたり。この地に引っ越してきて、しみじみと良かったと思う。

元々、一般の住宅をグループホームとして利用しようとする「用途変更」という手続きが必要となる。ここ数年でもグループホームでの火災によって入居者が亡くなるということがあり、普通の住居よりも厳しい基準が適用されることは致し方ないことではあるが、特に木造2階建ての一般住居となると、その基準の厳しさにグループホームとしては活用できないという現実がある。グループホームを所管している東京都の地域生活支援課居住支援担当とこのこととお話すると、「何分、各市町村の建築審査課の判断であり、都としてはどうにもならない、区によって厳しさはまちまち」との答えが返って来た。建築審査課から指摘されていたのが、壁を天井裏に届くような「界壁」に入れ直すことや、敷地内の物置の撤去、ブロック塀の上端を切って高さを規定内に収めることなど。一番大きな修正点は中心線から2メートルの幅で道路を確保する必要があり、道路側にはみ出した敷地を削り、ブロック塀を入れ直し、新たに門扉を取り付けること。これらについて、「後出しジャンケン」のように小出しで言われるので、当初の見積りからかなりの予算を超える結果になり、大いに慌てた。建築審査課は建築基準法や都条例などに準拠して当然の指導をされているのだろうとは思いますが、言うべきは最初から言っていた良かった。グループホーム連絡会などでも、この間の指導の内容について共有できればと考えている。

最近もグループホームへの入居希望者を案内した際、入居者から「お互いに支え合っている場所。退居して一人暮らしをしている先輩を見て、私もできるはずと思えるようになった」と力強く語ってくださるのを見るにつけ、グループホームの存在意義を再確認した次第である。

なお、これ迄お貸し頂いた大家の皆様、当時は障がい者施設への理解が浅い中で、勧んで大切な建物をお貸し下さり、ありがとうございました。

平成28年度 事業報告 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

こうじや生活支援センター・かまた地域生活支援センター

相談事業及び地域生活支援センター I 型事業

登録者	こうじや生活支援センター: 197名 かまた生活支援センター: 239名										
相談事業	基本相談(件)	面接	電話	訪問	同行	専門相談	連絡調整	ケア会議	生活支援		
		こうじや	1,174	1,339	545	102	24	5,964	116	2,212	
		かまた	879	2,604	130	38	10	2,445	65	488	
	指定特定相談	計画相談件数:こうじや 165・かまた 145 計画作成数:こうじや 147・かまた 97 モニタリング件数:こうじや 587・かまた 241									
指定一般相談	地域移行件数: こうじや 6・かまた 3					地域定着件数: こうじや 10 ・かまた 5					
オープンスペース	開所日数: こうじや 239日・かまた 194日、利用者数: こうじや 4271人・かまた 5823人、1日平均利用者数: こうじや17.9人・かまた30.0人										
行事(参加者数)	こうじやセンター祭り(メンバー:41、地域:149)、餅つき交流会(メンバー:32、地域:33) ギャラリー喫茶(メンバー:43、地域:45)										
夕食サービス	実施回数 :こうじや87回・かまた45回、利用者数: こうじや974人・かまた537人、1日平均利用者数: こうじや11.2人・かまた11.9人										
生活サポート	利用者数:こうじや 16人・かまた 16人、従業時間:こうじや 1393分・かまた1202分										
生活支援・地域交流プログラム等	実施回数:こうじや 189回・かまた 142回、利用者数(延):こうじや 1281人・かまた1139人										
ボランティア	実人数:こうじや 6人・かまた5人、延人数:こうじや 124人・かまた 27人										
実習生受入	PSW実習生:こうじや 6人・かまた 1人、その他(看護・保健師・OT等) 8人										

<こうじや生活支援センター>

・平成28年10月より常勤1名が増え、常勤4名・非常勤2名の6名体制になる(内相談支援専門員:常勤3名・非常勤1名)。計画相談支援・地域相談支援が始まり5年が経とうとし、また基本相談支援事業においては、年々とセンター外での支援のニーズが高まって行く中で、職員体制の見直しを行った。主に計画相談支援担当を常勤1名・非常勤1名の2名体制、主に地域活動支援センター I 型担当を常勤3名・非常勤1名の4名体制とし、職員それぞれの役割を明確化させた。計画相談支援と地域相談支援においては、基本「お断りしない」対応を継続していきながら、平成28年度新規計画相談支援開始人数としては59名となった。

・地域移行支援については、新たに4名の方の支援を開始。平成29年8月頃には4名ほどの退院を見込んでいるが、平成28年度退院に結び付いた方が0名だったことは反省点として挙げられる。平成29年度においては、地域生活安定化支援事業の担当者とも連携をとりながら大田区外の病院に長期入院されている方の支援をできればと考えている。

・地域定着支援においては、2名の方の支援を開始。平成30年度から開始される予定の「自立生活援助」を当センターでも行って行く事を見越して、地域定着支援における緊急時支援の在り方を引き続き検討していきたい。また、地域移行支援と同様に地域生活安定化支援事業と連携をとりながら進めて行ければと考えている。

また、地域活動支援センター I 型業務としては、オープンスペース利用者の方からのニーズをキャッチできる体制作りに努め、必要時には障害福祉サービスに繋げていける様にし、またしばらくセンター利用をされていない方へ連絡を入れてみたり、計画相談支援からつながった方に対しても、必要に応じてセンターの紹介をしていく事に努めた。

平成29年度では、常勤5名・非常勤1名の体制となったが、平成28年10月から行っている担当制を継続し、主に計画相談支援担当を常勤1名・非常勤1名。主に地域活動支援センター I 型担当を常勤4名で行って行く。地域相談支援においては、職員全員で取り組んでいきたい。

<かまた生活支援センター>

・平成28年度は職員を常勤5人体制にし、マンパワー不足の解消がややでき、基本相談やフリースペース対応に重視しました。ミーティングや運営ミーティングの参加者は増加傾向にあり、利用者から意見が出て自主企画(パン作り等)や、講師を招いてハラスメント講習会を行いました。また、レディースデイについても1年間かけてミーティングで話し合い、平成29年4月からお試してレディースタイム・メンズタイムを設けることになりました。今後も利用しやすいセンターとなるよう、皆さんと考えていきたいと思ます。

・計画相談は新規依頼は28件受け、他機関連絡調整が増加しています。地域移行支援利用者は退院した方1名と、もうすぐ2名が退院につながる予定です。

今後も地域生活安定化支援事業と連携しながら、地域移行支援・地域定着支援を行っていき、給付事業と地域活動支援センター・基本相談の両立した運営を目指していきたいと考えています。

高次脳機能障害者支援

相談開所日数	44日	面接	4	電話	26	訪問	4	同行	3	連絡調整	13
相談内容	地域移行相談、退院後の入所施設の確保について。 退所後の通所施設の選択について。 家族の話せる場について。 体調の相談。通所状況報告。モニタリング。就労相談。傾聴。										

・28年度で事業は終了したが、社会資源と当事者の方をつなぐ役割としての相談事業の役割を確認し、かまた生活支援センターの基本相談の中で相談を継続する。

地域生活安定化支援事業

支援実施者延数	2735人	ケア会議開催数	66件	参加者延数	444人
訪問・面接	171件	電話	237件		
利用期間への通所支援	48件	外出支援	55件	住居探し等援助・退院準備	9件
家族支援	71件	関係機関調整	1491件		

・地域生活安定化支援事業は、大田区の補助事業として、退院支援を行う事業です。長期入院の方や、入退院を繰り返している方が対象になります。安定化事業が二人体制になり今年で3年目になります。果たして、成果は出ているのでしょうか。不安になることもありますが、利用者さんとの関わりの中で、たくさんのかを学び、日々勉強しながら支援のあり方を追求しています。

・支援件数は年々増加しています。支援の実態としては、比較的すぐに退院できる利用者さんは退院できますが、長期入院や高齢・持病などで退院後の生活として単身生活の検討が難しい利用者さんが多く残っているのが現状です。しかし、入退院を繰り返してきた方が、地域で落ち着いて生活しているのを見ると、人の変化の可能性を感じ、地域で生活する意味を改めて考えさせられます。また、関係性を作ることがいかに大切なのかを痛感します。

・課題点としては、今年度も地域移行給付を導入することが出来なかったことがあげられます。来年度以降は業務を整理し、事務時間を捻出して短時間で退院が見込めるケースについては給付事業を積極的に導入していきたいと思えます。

・平成30年度以降、更なる制度改変が予定されていることもあり、全都・全国のネットワークへの参加と情報収集は今年度同様引き続き積極的に続けていきます。また大田区内でも安定化事業として情報提供、情報共有を心がけ、地域として連携していきたいと思えます。

ホームプシケ

入居者数	33人							
H28年度退居者	9名	退去後の状況	アパートでの単身暮らし	9名	施設	0	入院	0
H28年度新規入居者	9名	入居前の状況			地域から	3名	入院	6名
グループホーム活用型ショートステイ			入院中の体験宿泊 9名(実)/108日(延べ)・地域からの利用 5名(実)/38日(延べ)					

・借り換えについて、さくら草とメゾンしろが移転できた。職員体制、宿直の夜間巡回体制、スタッフミーティングの持ち方、職員、入居者の緊急時の連絡方法などの検討を重ね、新体制に備えた。

・入居前後問わず医療や関係機関との連携の必要性があり、ケア会議や担当者会議を重ねた。グループホームでの生活の中でも、受診の同行同席、関係機関との連絡調整などをし、退居後、地域での生活を送り続けられる協力をえられるよう支援。一人一人の望む生活を送れるようににした。

・平成28年度は、障害支援区分3以上の方も5人おり、一人に対する世話人の時間も増えた。また医療観察法対象者の入居を2名受け入れ支援をしてきている。受け入れ可能のグループホームが少なく、今後の取り組みが課題となっている。手厚い支援を期待するためのスタッフ体制を考える。

・ホーム蒲田の独自のショートステイ事業は地域移行利用の方やその制度を検討中の方なども対象として幅広く受け入れができた。今後、都や区とも相談をしながら、現在の長所を生かしつつ短期入所事業を開始できるように検討していく予定。

・職員の研修を行い、学びの成果を業務に活かした。

クッキングワーク街の駅

利用登録者数	29	1日平均通所者	7.2	平均年齢	44.1歳	開所日数	246
通所ペース	週1日…7名、週2日…9名、週3日…10名、週4日…1名、週5日…2名						
配食サービス全体	実施日数	196	食数	年間	7,098	1日平均	36.2
	昼食弁当	97		年間	4,395	1日平均	45.3
	夕食弁当	99		年間	2,703	1日平均	27.3
作業内容	調理・配達・回収・ポスティング・洗い物など						

・事業所開設から4年目となった28年度は、利用者の安定した通所が難しい1年であった。業務の流れ、作業工程等、運営体制自体は整えられたが、1年を通して個々の病状、生活環境等で調子を崩すメンバーが多く見受けられた。年々力のあるメンバーは一般就労や次のステップとして就労移行事業所等へと移っている。区内でも就労系の事業所が次々と増えていく中、B型事業所全体としても利用者の確保において格差が出てくると思われる。改めて利用者それぞれの利用目的を確認しながら、作業の見直し、日常生活全般の支援に取り組むことを継続してきた。また、28年度は第三者評価を受審した。

・配食数は、関係機関からの注文が多い昼食は目標数を維持。地域住民からの注文が多い夕食は若干目標数を下回った。工賃アップを進めてきたが、前年・目標とも平均額には及ばず次年度への課題である。

《年間通所者状況》

・作業内容 調理12名(男性4名、女性8名) 配達10名(男性7名、女性3名) 回収3名(男性3名、女性0名) その他2名(男性2名、女性0名) 調理 + 配達 2名(男性1名、女性1名)

平成 28 年度 決算報告 (法人全体)

法人単位事業活動計算書
(自)平成28年 4月 1日 (至)平成29年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	3,382,530	3,606,250	△ 223,720
		障害福祉サービス等事業収益	197,540,075	192,670,471	4,869,604
		経常経費寄附金収益	382,100	2,023,874	△ 1,641,774
		その他の収益	1,110,000	527,000	583,000
		サービス活動収益計 (1)	202,414,705	198,827,595	3,587,110
	費用	人件費	140,055,297	132,658,510	7,396,787
		事業費	5,582,771	8,310,538	△ 2,727,767
		事務費	48,952,809	44,935,863	4,016,946
		就労支援事業費用	3,377,511	3,560,491	△ 182,980
		減価償却費	2,445,651	2,347,936	97,715
サービス活動費用計 (2)	200,414,039	191,813,338	8,600,701		
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	2,000,666	7,014,257	△ 5,013,591		
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	6,975	18,615	△ 11,640
		その他のサービス活動外収益	942,998	1,257,852	△ 314,854
	サービス活動外収益計 (4)	949,973	1,276,467	△ 326,494	
	費用	その他のサービス活動外費用		4,550	△ 4,550
		サービス活動外費用計 (5)		4,550	△ 4,550
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	949,973	1,271,917	△ 321,944		
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	2,950,639	8,286,174	△ 5,335,535		
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	2,000,000		2,000,000
		特別収益計 (8)	2,000,000	0	2,000,000
	費用	固定資産売却損・処分損	98,506		98,506
		特別費用計 (9)	98,506	0	98,506
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	1,901,494	0	1,901,494		
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	4,852,133	8,286,174	△ 3,434,041		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)	80,188,571	71,902,397	8,286,174	
	当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)	85,040,704	80,188,571	4,852,133	
	基本金取崩額 (14)				
	その他の積立金取崩額 (15)				
	その他の積立金積立額 (16)				
次期繰越活動増減差額 (17) = (13) + (14) + (15) - (16)	85,040,704	80,188,571	4,852,133		

財 産 目 録

平成28年3月31日

I 資産の部		II 負債の部	
1、流動資産	78,427,482	1、流動負債	17,473,436
現金預金	58,101,920	未払金	11,131,439
未収金	19,972,389	預り金	679,923
立替金	3,190	賞与引当金	5,662,074
前払金	349,983	2、固定負債	0
2、固定資産	39,086,658		
基本財産	10,000,000		
その他の固定資産	29,086,658		
資産合計	117,514,140	負債合計	17,473,436
差引純資産			100,040,704



これから開催されるイベントです



こうじや生活支援センターのセンター祭り開催のお知らせ

今年もこうじや生活支援センターでは、「福祉のまち糶谷 夏のお祭り」と共催でセンター祭りを開催します。

今年もあけぼの会との共催で行う当事者発表と座談会を予定しています。その他のプログラム等については、今後メンバーミーティングや「センター祭りミーティング」で検討していきたいと思っています。興味のある方は是非一緒にミーティングにご参加下さい。詳しくはこうじや生活支援センタースタッフまでお問い合わせください。

一緒に夏のひと時を楽しみましょう。

日時：平成 29 年 8 月 20 日（日）11：00～16：00

場所：こうじや生活支援センター



かまたセンター 芋煮・甘酒会を開催します



昨年までギャラリー喫茶を行ってきました地域交流事業ですが、今年度はメンバーさんと話し合い「芋煮・甘酒会」を行うことになりました。具沢山の芋煮に米麴の甘酒で、寒くなる季節を皆さんで楽しく温まりましょう。

芋煮で使う里芋はプログラムのふれあいファームでセンター前花壇にて育てています。メンバーさんと職員で大きい里芋がたくさんできるよう大切に育てていきますのでお楽しみにしてください。

これからミーティング、運営ミーティングにて話し合いを行っていきますので、ご意見のある方はぜひ、そちらもご参加ください。



日時：10月28日（土）14：00～（なくなり次第、終了となります）

場所：大平橋児童公園（かまた生活支援センター隣り）雨天時はセンター内で行います。

フシケおおた 事業報告会のご案内

11月22日（水）にフシケおおたの事業報告会を行います。

フシケおおたではグループホーム、地域活動支援センター、作業所と様々な福祉サービスを行っています。今回、法人が行っている事業を紹介し、これまでの活動を振り返るとともに、日頃から当法人の事業・活動にご支援やご協力を頂いている皆様へ感謝を申し上げる機会にしたいと思っています。

詳細が決まりましたら追って報告致しますので、皆さまよろしくお願い致します。



堀崎 由葵菜

4月1日からこうじや生活支援センターにて勤務しております堀崎由葵菜と申します。まずは皆様のお名前と、お顔や声を覚え、そしてお話を聴かせていただき、日々が新鮮な気持ちです。新しい環境の中で慣れないことやわからないことも多く、皆様のお力を借りて学ばせていただいております。少しずつ、一歩ずつですがお力になれるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



人事異動がありました



有馬 広祥

昨年の10月よりこうじや生活支援センターに異動してきました。有馬広祥(ありまひろよし)と申します。趣味は食べ歩き(スイーツ食べ放題も好き)です。最近では運動不足解消のためにボルダリングを始めました。こうじやセンターではランチ会で皆さんと料理を作ったり、スポーツプログラムで卓球やバドミントンなどをやらせていただいています。まだ駆け出しなので日々色々と学ばせてもらっています。どうぞよろしくお願いいたします。

CSにしかまた

5月21日(日) フリーマーケット 好天に恵まれ盛況でした。

太陽が照り付ける猛暑日となり、急遽かき氷を準備し販売しました。

お店は10時から13時まで営業、かき氷は氷を2塊使い切り、4800円を売り上げました。ポップコーンは3000円くらいと衣類雑貨等のフリマ売上1万2000円ほどで合計約2万円の売り上げでした。

女塚商店会交友会よりフリーマーケットの区画づくりを依頼されている「CSにしかまた」としては、今回初めて女塚小学校寄りに新しい区画を11区画作り、これまで最大の69区画を作りました。

投稿コーナー



夕日

眩しく光る

初夏の日差しに

広がると

一枚一枚

花びらは

「地域共生社会」の実現に向けて～研修会報告

4月5日法人の辞令交付の後、職員全体で研修が行われました。厚生労働省の「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の決定した「地位共生社会」の実現に向けての改革工程とその概要について資料を確認し、今後の法人の取り組みにどのような影響があり、また、どのような取り組みを行っていきけるかを検討する、という内容です。

「地域共生社会」とは「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」と定義されています。平成29年には介護保険法・社会福祉法の改正が、平成30年には介護・障害報酬改定などが行われ、平成31年以降にさらなる見直しを経て全面展開する工程となっています。

改革の柱は4点あり、①包括的な相談から見立て、支援調整の組み立て+資源開発、②高齢・障害・児童への総合的な支援の提供、③効果的・効率的なサービス提供のための生産性向上、④総合的な人材の育成・確保、となっています。

また、全体像イメージとしての軸は2点あり、①「我が事」としての地域づくり(住民主体による地域課題解決力強化・体制づくり、市町村による包括的な相談支援体制の整備、地域支援事業の一体化実施と財源確保、地域福祉計画の充実と各種計画の総合化・包括化など)と、②「丸ごと」としてのサービス・専門人材の丸ごと化(公的福祉サービスの総合化・包括化、専門人材のキャリアパスの複線化など)が提示されています。

これらのことを踏まえて、グループごとに議論したところ、以下のような意見が出ました。

1. 法人・職場への影響について

- ・地域に仕事も財源も丸投げしている
- ・これ以上の負担が増えれば現場の福祉職がさらに疲労困憊になるのでは
- ・地方ならばイメージできるが都市圏ではまず地域コミュニティの再生から始めなければ
- ・寄付文化の根付いていない日本では財源の確保が難しい
- ・平成30年～32年の第5期障害福祉計画を見据えながら都や区に訴えていく必要性あり

2. 法人・職場で取り組んでいけること

- ・食事提供を利用者のみではなく、生活困窮の子供たちや、地域の高齢者へと対象を広げる
- ・上記とあわせてフードバンクの登録やシルバー人材の活用なども
- ・就労継続支援B型やグループホームに高齢の方の利用も検討していく
- ・地域の人々が参加しやすいようにお祭りや餅つきなどのイベントを増やす
- ・フリースペースを登録制として枠を広げ、家族や地域の関係者が足を運びやすくする
- ・親が障害を持っている子どもの多い児童養護施設との連携を密にして専門的なサポートを行う
- ・訪問看護ステーション、高齢者センター、放課後デイサービスなどを立ち上げ、プログラムやレクリエーションなど共通するものを他事業所のものと連携して行っていく
- ・CSにしかまたで子どもの学習支援を行う
- ・ピアカウンセリングを導入し、利用者さんに支援者としてサポートしてもらう
- ・専門性を高め特化して当法人でなければ対応できないという支援をおこなっていくことで他事業所との差別化をはかり生き残りをかける必要がある。

【所感】 実現可能なものばかりではないかもしれませんが、少子高齢化が進み財源と人材の確保に限界がある状況下で、まず身近なところで大きな変化を加えなくとも実現可能なことを一つひとつ進めていくことが大切なのではないでしょうか。現場で知恵を出し合いながらできることをできる範囲で進める一方で、制度設計やその見直しについては国や地方に現場からの声を強く伝えて、地域で暮らす誰もが納得できるような制度になるように訴えていくことも必要だと感じました。

～研修プロジェクトチーム～

新代表に高橋明紀代さんを選出 賛助会総会



賛助会新体制

代表	高橋明紀代
副代表	佐々木康生
幹事	道家忠男
	鈴木宣一
	西田房生
	細川道宏
	山岡道夫
会計	木津初美
監事	福島礼子
	古怒田幸子

賛助会総会が、6月11日(日)14時から開催されました。参加者は41名でした。平成28年度事業報告(「あい 精神障害と向き合って」上映会10月9日170名参加 於エセナおおた)、決算(法人へ30万円の寄付)及び平成29年度予算(法人へ30万円の寄付)、事業計画(普及啓発活動に取り組む。)について議論しました。

新しい賛助会役員体制は代表に元副代表の高橋さん、副代表に元監事の佐々木さん、新しく幹事にかまたセンターボランティアの西田房生さん、商店会交友会の役員、デザイナーの細川道宏さん(プシケパンフレット作製者)を迎え、元代表の道家忠男さん、元監事の鈴木宣一さんも幹事として加わっていただいています。

監事は福島礼子さん、古怒田幸子さんに新しく就任していただきました。よろしくお願いいたします。

道家さん長い間代表職についていただきありがとうございました。今後も幹事としてよろしくお願いいたします。

総会後の講演会は、大田区社会福祉協議会の福本昌恵さんより「今、地域で社会福祉法人に期待すること」を、「社会福祉法人の連携事業スマイルプロジェクトの取り組み」について根本さんよりお話していただきました。

<決算報告>

平成28年度決算

	収入	支出
27年度よりの繰越金	262,087	
個人会員会費	278,000	
団体会員会費	60,000	
カンパその他	25,000	
プシケへの寄付		300,000
振込用紙印刷代		602
振込料金		7,180
総会費用		20,322
合計	625,087	328,104

平成29年度への繰越金 296,983 円

平成29年度予算案

	収入(案)	支出(案)
個人会員収入	280,000	
団体会員収入	100,000	
カンパその他の雑収入	10,000	
28年度よりの繰越金	296,983	
合計	686,983	
法人プシケへの寄付		300,000
総会・イベント費等		22,000
振込用紙印刷代		1,000
振込料金		10,000
郵券・送料等		10,000
予備費		343,983
合計	686,983	686,983



平成29年度、4月から6月までに会費を納入して頂いた方

個人会員: 16名

団体会員: 3団体

心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

賛助会代表 高橋明紀代